

「まじわやさしい」という和食の合言葉や、子どもたちがよく知っている「いかのおすし」という防犯標語は有名ですが、「ポジティブ子育て」にぴったりの愛言葉「あしかはつみ」をご提案します。子どもたちのやる気と元気を育むために、愛言葉をシャワーのように降り注ぎ、ポジティブ思考で子どもたちを見守りましょう。

ポジティブシャワー

あいさつ
行ってらっしゃい
お帰りたいま
行ってきます

あ

認める
すごい
すばらしい
かっこいい

み

受け止める
うんうん
へえ そうなんだ
なるほど

う

励ます
大丈夫
できるできる
ドンマイ ドンマイ

は

信じる
あなたなら
きっとできるよ
信じているよ

し

感謝
ありがとう
助かったよ
うれしいな

か

愛言葉

もうすぐ年の瀬。大掃除をして、「家の中に不浄なものが入らないようにしめ縄を飾り」、大晦日には、「切れやすいそばを食べて今年の厄を断ち切る」という日本の習慣があります。来年こそは、ウイルスを撃退し、「コロナ禍という厄を落としたいものですね。また、年末は今年の重大ニュースがマスコミ等で取り上げられる季節です。そこで、「ポジティブ子育て重大ニュース2021」を選んでみました。

「ポジティブ子育て 重大ニュース2021」

- 第1位 消毒・手洗い習慣の定着**
コロナ前は、耳にたこができるほど、「家に帰ってきたら手を洗いなさい」と言われていた子どもたち。今や、ハンドソープの減りを誰よりも早く指摘するわが子です。
- 第2位 病気を寄せ付けないマスク生活**
コロナ禍ではマスクがドレスコード。花粉症やインフルエンザウイルスに悩まされることも減りました。
- 第3位 みんなふるさとマイスター**
修学旅行や家族旅行も県内で、ふるさと福井の良さを再発見。気がつけば、福井県に詳しくなっていました。
- 第4位 仕事も家事も働き方改革**
テレワークやステイホームの時間が増え、家族と過ごすなかで、子どもの家事分担意識が向上。家族の絆も深まりました。
- 第5位 一気に加速 ICT教育**
GIGAスクール構想によるタブレット端末が1人1台整備され、オンライン学習が可能に。ICT教育環境が激変しました。タブレットを操作する慣れた手つきに感心。

コロナ禍という災害に見舞われ、新しい生活様式や様々な感染症対策にも柔軟に対応してきた私たち。命や健康の大切さを再認識し、様々な価値観や多様性にも寛容になることができたように思います。
いつの時代もどんなときも変わらないのは親子の絆。子どもを元気にするためにはまず、子どもを支える親が元気でいることです。親も「ポジティブシャワー」を浴びながら、子どもと一緒にやる気と元気をアップさせましょう。

子育てのヒント

「もう少し『やる気』を出してくれたら、何でもできるのに」と思うのが、親の本音です。
「やる気が出る時」は、どんなときか、直接中学生に聞いてみました。

中学生は、まず「褒められたとき」と言います。テストの成績がよかったとか、部活動で試合に勝ったときに褒められた経験が「やる気」に繋がったのでしよう。

また、「本を読むのが好き」「国語・数学の勉強が好き」「部活動が大好き」ということも「やる気」を引き出します。学習内容やスポーツ自身の魅力が子どもの「やる気」を育てているようです。

さらに、子どもが目標をもち、努力し続けていくことも、「やる気」に繋がっているようです。

しかし「どうすれば『やる気』が出るのか、わからない」という子もいます。子どもたち自身も悩んでいるのです。

そんな中で、嬉しい言葉がありました。「人の役に立つ仕事をしたい。その道に進むために勉強を頑張りたい」という声でした。例えば「コロナ禍の中」「看護師さんや医療関係の人が頑張っている。自分も医療関係の仕事について役立ちたい」というのです。「人の役に立つ」ために何かを学ぶことは、子どもの「やる気」に繋がるようです。

「人の役に立つ人間になる」という項目の全国調査では、鯖江市の子どもたちは、全国平均や福井県平均よりも高くなっていました。鯖江市の子どもたちのよい点であり、そんな生徒が増えているのは頼もしい限りです。「人の役に立つ」という「他者」の視点に立つと、最後には子どもたち自身の「やる気」が高まるようです。コロナ禍、私たち大人が「どうすると役に立つのかな」と子どもたちに投げかけてみたらどうでしょうか。

※「涓滴」とは「しずく」という意味。しずくを集まれば、やがて大河になる。この願いを込めて。